授業科目	臨床医学総論III	担当教員	金谷　樹		
対象年次・学期	3 年・通期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	臨床工学技士に必要な臨床医学分野の知識を学ぶ。				
到達目標	臨床業務に必要な医学知識の習得と関連分野の国家試験問題が解ける。				
テキスト・参考図書等	配布プリント 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　血液浄化療法装置」　第 2 版　（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	試験により評価する
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①スライドを用いた講義形式。②遅刻はしないこと。③授業中の私語、携帯、居眠り厳禁。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	腎疾患（1）	HD 患者の栄養指導(P、K、塩分、水分、エネルギー等)
	2	腎疾患（2）	貧血について①(管理目標値、ESA、HIF-PH 阻害剤等)
	3	腎疾患（3）	貧血について②(ERI、鉄代謝、鉄関連パラメータ等)
	4	腎疾患（4）	HD 患者特有のデータについて(n-PCR、KT/V 等)
	5	腎疾患（5）	患者監視装置について(構成、トラブル等)
	6	腎疾患（6）	HD 中の患者管理について(BP 低下、下肢つり、抜針事故等)
	7	腎疾患（7）	HD 患者によく使用する薬剤について(昇圧剤、降圧剤、P、K 吸着剤、ESA 等)
	8	腎疾患（8）	タンパク結合毒素(原因物質、機序、対策)、フレイル(機序、対策、指導)について
	9	腎疾患（9）	パラメータや薬剤
	10	腎疾患（10）	振り返り、ディスカッション準備と復習
	11	腎疾患（11）	ディスカッション①(班に分かれて実践的なパラメータを読み判断する)
	12	腎疾患（12）	ディスカッション②(各班代表者が発表する)
	13	血液疾患（1）	血液の働き（1）
	14	血液疾患（2）	血液の働き（2）
	15	血液疾患（3）	血液疾患の病態生理（1）
	16	血液疾患（4）	血液疾患の病態生理（2）
	17	脳血管疾患（1）	脳血管疾患の病態生理と治療方法（1）
	18	脳血管疾患（2）	脳血管疾患の病態生理と治療方法（2）
	19	脳血管疾患（3）	脳血管疾患の病態生理と治療方法（3）
	20	脳血管疾患（4）	脳血管疾患の病態生理と治療方法（4）
	21	脳血管疾患（5）	脳血管疾患の病態生理と治療方法（5）
	22	脳血管疾患（6）	脳血管疾患の病態生理と治療方法（6）

	23	循環器疾患（1）	循環器の基礎と病態生理（1）
	24	循環器疾患（2）	循環器の基礎と病態生理（2）
	25	呼吸器疾患（1）	呼吸器の基礎と病態生理（1）
	26	呼吸器疾患（2）	呼吸器の基礎と病態生理（2）
	27	代謝疾患（1）	代謝内分泌の基礎と病態生理（1）
	28	代謝疾患（2）	代謝内分泌の基礎と病態生理（2）
	29	消化器疾患（1）	消化器の基礎と病態生理（1）
	30	消化器疾患（2）	消化器の基礎と病態生理（2）

授業科目	臨床医学総論III	担当教員 実務経験	工藤元嗣 有：■　　無：□	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器、呼吸器、泌尿器、脳外科に関する検査や治療業務に従事
対象年次・学期	3 年・通期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医用機器安全管理学実習	担当教員	小山　有基		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	臨床工学技士として安全管理の考え方を理解することを目的とする。				
到達目標	臨床工学技士に求められる安全管理の在り方を調査・研究できるようになる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座　「医用機器安全管理学」　第 2 版　（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	①研究データ ②発表技術 ③抄録・スライド提出 以上を総合して評価する
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	100	

履修上の留意事項	①パソコンを使用し、研究発表や文書作成。②実際の装置や測定機器を使用した実習。③遅刻はしないこと。④授業中の私語、携帯、居眠り厳禁。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	研究テーマ策定	実習の流れ及び研究内容の選択
	2	安全管理研究発表（1）	要旨作成（1）
	3	安全管理研究発表（2）	要旨作成（2）
	4	安全管理研究発表（3）	要旨作成（3）
	5	安全管理研究発表（4）	要旨作成（4）
	6	安全管理研究発表（5）	PPT 作成（1）
	7	安全管理研究発表（6）	PPT 作成（2）
	8	安全管理研究発表（7）	PPT 作成（3）
	9	安全管理研究発表（8）	PPT 作成（4）
	10	安全管理研究発表（9）	PPT 作成（5）
	11	安全管理研究発表（10）	PPT 作成（6）
	12	安全管理研究発表（11）	PPT 作成（7）
	13	安全管理研究発表（12）	PPT 作成（8）
	14	安全管理研究発表（13）	PPT 作成（9）
	15	安全管理研究発表（14）	PPT 作成（10）
	16	安全管理研究発表（15）	PPT 作成（11）
	17	安全管理研究発表（16）	PPT 作成（12）
	18	安全管理研究発表（17）	PPT 作成（13）
	19	安全管理研究発表（18）	研究発表（1）
	20	安全管理研究発表（19）	研究発表（2）
	21	安全管理研究発表（20）	研究発表（3）
	22	安全管理研究発表（21）	研究発表（4）

授業科目	医用機器安全管理学実習	担当教員 実務経験	山内芳子 有：□　　無：■	
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療情報学	担当教員	牛嶋　和夫		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	病院管理のあり方など、病院経営に必要な医療情報に関する知識を学ぶ。				
到達目標	医療情報に関わる基礎的な知識を幅広く習得する。				
テキスト・参考図書等	病院管理学入門　第 5 版（医学書院）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	①定期試験 ②小レポート ③出席、受講態度 以上を総合して評価する
レポート	15	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	15	

履修上の留意事項	①講義形式。②グループディスカッション(適宜)。③本講義の感想提出（一部)。④欠席しない。⑤講義開始時間を守る。⑥授業中の私語禁止。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	病院と医療	病院と医療の基本概念
2	病院管理学の登場とその歩み	病院管理学の歴史
3	現代の医療	近代医療と現代医療
4	病院のあり方と病院の業務	病院の形態と病院業務
5	病院倫理	国民の医療を守るための院人が遵守すべき行動基準
6	包括的医療	各分野の医家が、チームあるいはシステム医療として、病人の QOL の改善を目指す
7	医療施設	医療施設とは
8	院内感染の管理	院内感染防止対策委員会について
9	管理論	病院を管理するということは
10	組織論	病院の組織とは
11	人間関係論	病院内における人間関係とは
12	病院の業務	病院業務について
13	業務の合理化と医療の評価	病院機能評価機構について
14	病院の財務と採算性	病院経理について
15	病院業務の電子化	電子カルテについて

授業科目	医療情報学	担当教員 実務経験	牛嶋和夫 有：■　　無：□	病院経営のコンサルタントとして医療情報管理や病院経営全般に関わる業務を経験
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	公衆衛生学	担当教員	今谷　正則		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	地域社会における組織的活動による社会環境の改善によって、健康の保持・増進を図ることが公衆衛生活動の目的であり、その理論的、技術的基盤が公衆衛生である。したがって、地域における組織的活動の一翼を担う医療従事者として、公衆衛生学の理論と技術の基本を学ぶことが目的である。				
到達目標	疾病予防や健康増進は地域社会における組織的活動による社会環境の改善が必要であること、公衆衛生活動における行政や法律の役割を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学技士標準テキスト第 3 版増補版（金原出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	試験により評価する
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①テキストおよびプリントを用いた講義。②講義内容を多角的な視点で理解できるように国試の過去問も利用しながら解説する。③臨床医学とは異なる考え方や用語が多いので、理解しづらい点は積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	公衆衛生学の目的と公衆衛生活動の意義	公衆衛生学の目的、公衆衛生活動の定義、公衆行政の目的と組織、保健所
	2	健康と疾病	世界保健機関（WHO）の健康の定義、日本国憲法第 25 条、健康の構成要因、疫学と保健衛生統計
	3	わが国の公衆衛生活動の現状（1）	衛生統計
	4	わが国の公衆衛生活動の現状（2）	感染症対策
	5	わが国の公衆衛生活動の現状（3）	医療従事者としての課題、環境衛生学
	6	わが国の公衆衛生活動の現状（4）	学校保健、産業保健
	7	わが国の公衆衛生活動の現状（5）	環境保健（保全）
	8	わが国の公衆衛生活動の現状（6）	社会保障・社会福祉と公衆衛生の関係

授業科目	公衆衛生学	担当教員 実務経験	今谷正則 有：■　　無：□	薬剤師として保健所に勤務し公衆衛生に関連する業務に従事
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	卒業研究	担当教員	本吉　竜浩		
対象年次・学期	3 年・通期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	臨床実習で実際の臨床現場を体験することで、新規性のある研究テーマを探求し、調査、研究した成果を報告する。				
到達目標	研究の流れを経験することで、現状の問題を発見し解決する能力、さらにはそれらの情報を発信するプレゼン能力を習得し、報告会にて発表することができる。				
テキスト・参考図書等	研究テーマごとに別途指示あり				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	提出物、研究・調査に取り組む態度および発表内容を総合して評価する
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	50	
	その他	50	

履修上の留意事項	研究テーマを探求、テーマに合わせて調査研究、実証実験、研究開発の実施。スライドまたはポスターにて発表。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	卒業研究（1）	ガイダンス
	2	卒業研究（2）	研究テーマ決定準備
	3	卒業研究（3）	研究テーマ決定準備
	4	卒業研究（4）	研究テーマ決定準備
	5	卒業研究（5）	研究テーマ決定準備
	6	卒業研究（6）	研究テーマ決定準備
	7	卒業研究（7）	研究テーマ決定準備
	8	卒業研究（8）	研究テーマ決定準備
	9	卒業研究（9）	研究目的の策定
	10	卒業研究（10）	研究目的の策定
	11	卒業研究（11）	研究方法の検討
	12	卒業研究（12）	研究方法の検討
	13	卒業研究（13）	研究方法の検討
	14	卒業研究（14）	研究方法の検討
	15	卒業研究（15）	研究方法の検討
	16	卒業研究（16）	研究方法の検討
	17	卒業研究（17）	研究方法の検討
	18	卒業研究（18）	研究方法の検討
	19	卒業研究（19）	調査・実験
	20	卒業研究（20）	調査・実験
	21	卒業研究（21）	調査・実験
	22	卒業研究（22）	調査・実験
	23	卒業研究（23）	調査・実験

	24	卒業研究（24）	調査・実験
	25	卒業研究（25）	調査・実験
	26	卒業研究（26）	調査・実験
	27	卒業研究（27）	調査・実験
	28	卒業研究（28）	調査・実験
	29	卒業研究（29）	調査・実験
	30	卒業研究（30）	調査・実験
	31	卒業研究（31）	調査・実験
	32	卒業研究（32）	調査・実験
	33	卒業研究（33）	調査・実験
	34	卒業研究（34）	調査・実験
	35	卒業研究（35）	調査・実験
	36	卒業研究（36）	抄録作成
	37	卒業研究（37）	抄録作成
	38	卒業研究（38）	抄録作成
	39	卒業研究（39）	抄録作成
	40	卒業研究（40）	抄録作成
	41	卒業研究（41）	抄録作成
	42	卒業研究（42）	抄録作成
	43	卒業研究（43）	抄録作成
	44	卒業研究（44）	抄録作成
	45	卒業研究（45）	抄録作成
	46	卒業研究（46）	抄録作成
	47	卒業研究（47）	PPT・ポスター作成
	48	卒業研究（48）	PPT・ポスター作成
	49	卒業研究（49）	PPT・ポスター作成
	50	卒業研究（50）	PPT・ポスター作成
	51	卒業研究（51）	PPT・ポスター作成
	52	卒業研究（52）	PPT・ポスター作成
	53	卒業研究（53）	PPT・ポスター作成
	54	卒業研究（54）	PPT・ポスター作成
	55	卒業研究（55）	PPT・ポスター作成
	56	卒業研究（56）	PPT・ポスター作成
	57	卒業研究（57）	発表練習
	58	卒業研究（58）	発表練習
	59	卒業研究（59）	発表練習
	60	卒業研究（60）	発表練習
	61	卒業研究（61）	発表練習
	62	卒業研究（62）	発表練習
	63	卒業研究（63）	発表練習
	64	卒業研究（64）	発表練習
	65	卒業研究（65）	発表①

	66	卒業研究（66）	発表②
	67	卒業研究（67）	発表③
	68	卒業研究（68）	発表④

授業科目	卒業研究	担当教員 実務経験	津田里佳子 有：■　　無：□	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器、呼吸器、血液浄化に関する業務に従事
対象年次・学期	3 年・通期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理工学演習 II	担当教員	小山　有基		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	国家試験に準ずる臨床工学技士に必要な理工学の総復習をし、機器の原理や基礎工学分野の知識を習熟する。				
到達目標	機器の原理や基礎工学分野を学び、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	プリントを配布、国家試験解説集 臨床工学講座　「医用電気工学 1」第 2 版、臨床工学講座　「医用電気工学 2」第 2 版、臨床工学講座　「医用電子工学」第 2 版（医歯薬出版） 臨床工学講座　「医用機械工学」、臨床工学講座　「医用情報処理工学」第 2 版、臨床工学講座　「医用システム・制御工学」　（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	試験により評価する
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①テキストおよびプリントを用いた講義。②遅刻はしないこと。③授業中の私語、携帯、居眠り厳禁。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	基礎工学（1）	機械工学（1）
	2	基礎工学（2）	機械工学（2）
	3	基礎工学（3）	機械工学（3）
	4	基礎工学（4）	機械工学（4）
	5	基礎工学（5）	電気工学（1）
	6	基礎工学（6）	電気工学（2）
	7	基礎工学（7）	電気工学（3）
	8	基礎工学（8）	電気工学（4）
	9	基礎工学（9）	電子工学（1）
	10	基礎工学（10）	電子工学（2）
	11	基礎工学（11）	電子工学（3）
	12	基礎工学（12）	電子工学（4）
	13	基礎工学（13）	システム情報（1）
	14	基礎工学（14）	システム情報（2）
	15	基礎工学（15）	システム情報（3）
	16	基礎工学（16）	システム情報（4）
	17	基礎工学（17）	物性工学
	18	基礎工学（18）	材料工学
	19	基礎工学（19）	総合演習（1）
	20	基礎工学（20）	総合演習（2）
	21	基礎工学（21）	総合演習（3）
	22	基礎工学（22）	総合演習（4）

授業科目	理工学演習	担当教員 実務経験	小山有基 有：□　　無：■	
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生体機能代行装置学実習ⅡC	担当教員	本吉　竜浩		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	生体機能代行装置学実習Ⅰで実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置を実際に操作して、システムを学ぶ。				
到達目標	生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を習得し、正しく操作できる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座　「生体機能代行装置学　体外循環装置」　第 2 版　（医歯薬出版） 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　呼吸療法装置」　第 2 版　（医歯薬出版） 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　血液浄化療法装置」　第 2 版　（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	①実技試験 ②レポート提出 以上を総合して評価する。
	レポート	50	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	少人数でのグループ実習。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	学内実習・体外循環（1）	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整（1）
	2	学内実習・体外循環（2）	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整（2）
	3	学内実習・体外循環（3）	基本操作（1）
	4	学内実習・体外循環（4）	基本操作（2）
	5	学内実習・体外循環（5）	基本操作（3）
	6	学内実習・体外循環（6）	基本操作（4）
	7	学内実習・体外循環（7）	トラブルシューティング（1）
	8	学内実習・体外循環（8）	トラブルシューティング（2）
	9	学内実習・血液浄化（1）	透析のプライミング（1）
	10	学内実習・血液浄化（2）	透析のプライミング（2）
	11	学内実習・血液浄化（3）	透析のプライミング（3）
	12	学内実習・血液浄化（4）	透析のプライミング（4）
	13	学内実習・血液浄化（5）	透析の開始操作（1）
	14	学内実習・血液浄化（6）	透析の開始操作（2）
	15	学内実習・血液浄化（7）	透析の返血（1）
	16	学内実習・血液浄化（8）	透析の返血（2）
	17	学内実習・血液浄化（9）	落差プライミング（1）
	18	学内実習・血液浄化（10）	落差プライミング（2）
	19	学内実習・人工呼吸器（1）	疾患別の呼吸管理（1）
	20	学内実習・人工呼吸器（2）	疾患別の呼吸管理（2）
	21	学内実習・人工呼吸器（3）	気管吸引と気道管理（1）
	22	学内実習・人工呼吸器（4）	気管吸引と気道管理（2）

	23	学内実習・人工呼吸器（5）	人工呼吸器のメンテナンス（1）
	24	学内実習・人工呼吸器（6）	人工呼吸器のメンテナンス（2）
	25	学内実習・心臓カテーテル（1）	心臓カテーテル検査及び治療の流れ（1）
	26	学内実習・心臓カテーテル（2）	心臓カテーテル検査及び治療の流れ（2）
	27	学内実習・高気圧酸素治療（1）	高気圧酸素治療の実際（1）
	28	学内実習・高気圧酸素治療（2）	高気圧酸素治療の実際（2）
	29	学内実習・急性血液浄化（1）	アフェレーシス装置の操作、点検（1）
	30	学内実習・急性血液浄化（2）	アフェレーシス装置の操作、点検（2）
	31	学内実習・ペースメーカ（1）	ペースメーカーチェック（1）
	32	学内実習・ペースメーカ（2）	ペースメーカーチェック（2）
	33	学内実習・総合（1）	生体機能代行装置に関する実務調査（1）
	34	学内実習・総合（2）	生体機能代行装置に関する実務調査（2）
	35	学内実習・総合（3）	生体機能代行装置に関する実務調査（3）
	36	学内実習・総合（4）	生体機能代行装置に関する実務調査（4）
	37	学内実習・総合（5）	生体機能代行装置に関する実務調査（5）
	38	学内実習・総合（6）	生体機能代行装置に関する実務調査（6）
	39	学内実習・総合（7）	生体機能代行装置に関する実務調査（7）
	40	学内実習・総合（8）	患者対応（1）
	41	学内実習・総合（9）	患者対応（2）
	42	学内実習・総合（10）	患者対応（3）
	43	学内実習・総合（11）	患者対応（4）
	44	学内実習・総合（12）	患者対応（5）
	45	学内実習・総合（13）	患者対応（6）

授業科目	生体機能代行装置学実習ⅡC	担当教員 実務経験	扇谷稔 有：■　　無：□	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器に関する業務に従事
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生体機能代行装置学実習ⅡD	担当教員	本吉　竜浩		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	生体機能代行装置学実習Ⅰで実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置を実際に操作して、システムを学ぶ。				
到達目標	生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を習得し、正しく操作できる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座　「生体機能代行装置学　体外循環装置」　第 2 版　（医歯薬出版） 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　呼吸療法装置」　第 2 版　（医歯薬出版） 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　血液浄化療法装置」　第 2 版　（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	50	①実技試験 ②レポート提出 以上を総合して評価する。
レポート	50	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	少人数でのグループ実習。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	学内実習・体外循環（1）	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整（1）
2	学内実習・体外循環（2）	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整（2）
3	学内実習・体外循環（3）	基本操作（1）
4	学内実習・体外循環（4）	基本操作（2）
5	学内実習・体外循環（5）	基本操作（3）
6	学内実習・体外循環（6）	基本操作（4）
7	学内実習・体外循環（7）	トラブルシューティング（1）
8	学内実習・体外循環（8）	トラブルシューティング（2）
9	学内実習・血液浄化（1）	透析のプライミング（1）
10	学内実習・血液浄化（2）	透析のプライミング（2）
11	学内実習・血液浄化（3）	透析のプライミング（3）
12	学内実習・血液浄化（4）	透析のプライミング（4）
13	学内実習・血液浄化（5）	透析の開始操作（1）
14	学内実習・血液浄化（6）	透析の開始操作（2）
15	学内実習・血液浄化（7）	透析の返血（1）
16	学内実習・血液浄化（8）	透析の返血（2）
17	学内実習・血液浄化（9）	落差プライミング（1）
18	学内実習・血液浄化（10）	落差プライミング（2）
19	学内実習・人工呼吸器（1）	疾患別の呼吸管理（1）
20	学内実習・人工呼吸器（2）	疾患別の呼吸管理（2）
21	学内実習・人工呼吸器（3）	気管吸引と気道管理（1）
22	学内実習・人工呼吸器（4）	気管吸引と気道管理（2）

	23	学内実習・人工呼吸器（5）	人工呼吸器のメンテナンス（1）
	24	学内実習・人工呼吸器（6）	人工呼吸器のメンテナンス（2）
	25	学内実習・心臓カテーテル（1）	心臓カテーテル検査及び治療の流れ（1）
	26	学内実習・心臓カテーテル（2）	心臓カテーテル検査及び治療の流れ（2）
	27	学内実習・高気圧酸素治療（1）	高気圧酸素治療の実際（1）
	28	学内実習・高気圧酸素治療（2）	高気圧酸素治療の実際（2）
	29	学内実習・急性血液浄化（1）	アフェレーシス装置の操作、点検（1）
	30	学内実習・急性血液浄化（2）	アフェレーシス装置の操作、点検（2）
	31	学内実習・ペースメーカ（1）	ペースメーカーチェック（1）
	32	学内実習・ペースメーカ（2）	ペースメーカーチェック（2）
	33	学内実習・総合（1）	生体機能代行装置に関する実務調査（1）
	34	学内実習・総合（2）	生体機能代行装置に関する実務調査（2）
	35	学内実習・総合（3）	生体機能代行装置に関する実務調査（3）
	36	学内実習・総合（4）	生体機能代行装置に関する実務調査（4）
	37	学内実習・総合（5）	生体機能代行装置に関する実務調査（5）
	38	学内実習・総合（6）	生体機能代行装置に関する実務調査（6）
	39	学内実習・総合（7）	生体機能代行装置に関する実務調査（7）
	40	学内実習・総合（8）	患者対応（1）
	41	学内実習・総合（9）	患者対応（2）
	42	学内実習・総合（10）	患者対応（3）
	43	学内実習・総合（11）	患者対応（4）
	44	学内実習・総合（12）	患者対応（5）
	45	学内実習・総合（13）	患者対応（6）

授業科目	生体機能代行装置学実習ⅡD	担当教員 実務経験	扇谷稔 有：■　　無：□	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器に関する業務に従事
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	関係法規	担当教員	西田　昌弘		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	職域を広げられるようになるため、医療法や臨床工学技士法など法律に関する理解を深める。				
到達目標	臨床工学技士業務を行う上で必要な関連法規に関する知識を幅広く習得する。				
テキスト・参考図書等	臨床工学技士標準テキスト第 3 版増補版（金原出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	試験により評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①スライドを用いた講義形式。　②口頭説明の重要な内容を配付プリントに適宜メモすること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	CE に必要な法規（1）	法の意義、体系
	2	CE に必要な法規（2）	臨床工学技士法（1）
	3	CE に必要な法規（3）	臨床工学技士法（2）
	4	CE に必要な法規（4）	臨床工学技士業務指針（1）
	5	CE に必要な法規（5）	臨床工学技士業務指針（2）
	6	CE に必要な法規（6）	医療法（1）
	7	CE に必要な法規（7）	医療法（2）
	8	CE に必要な法規（8）	その他の関係法規

授業科目	関係法規	担当教員 実務経験	西田昌弘 有：■　　無：□	弁護士として医療裁判などに関する業務に従事
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生体機能代行装置学実習ⅡB	担当教員	本吉　竜浩		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	生体機能代行装置学実習Ⅰで実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置を実際に操作して、システムを学ぶ。				
到達目標	生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を習得し、正しく操作できる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座　「生体機能代行装置学　体外循環装置」　第2版　（医歯薬出版） 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　呼吸療法装置」　第2版　（医歯薬出版） 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　血液浄化療法装置」　第2版　（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	50	①実技試験 ②レポート提出 以上を総合して評価する。
レポート	50	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	少人数でのグループ実習。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	学内実習・体外循環（1）	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整（1）
2	学内実習・体外循環（2）	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整（2）
3	学内実習・体外循環（3）	基本操作（1）
4	学内実習・体外循環（4）	基本操作（2）
5	学内実習・体外循環（5）	基本操作（3）
6	学内実習・体外循環（6）	基本操作（4）
7	学内実習・体外循環（7）	トラブルシューティング（1）
8	学内実習・体外循環（8）	トラブルシューティング（2）
9	学内実習・血液浄化（1）	透析のプライミング（1）
10	学内実習・血液浄化（2）	透析のプライミング（2）
11	学内実習・血液浄化（3）	透析のプライミング（3）
12	学内実習・血液浄化（4）	透析のプライミング（4）
13	学内実習・血液浄化（5）	透析の開始操作（1）
14	学内実習・血液浄化（6）	透析の開始操作（2）
15	学内実習・血液浄化（7）	透析の返血（1）
16	学内実習・血液浄化（8）	透析の返血（2）
17	学内実習・血液浄化（9）	落差プライミング（1）
18	学内実習・血液浄化（10）	落差プライミング（2）
19	学内実習・人工呼吸器（1）	疾患別の呼吸管理（1）
20	学内実習・人工呼吸器（2）	疾患別の呼吸管理（2）
21	学内実習・人工呼吸器（3）	気管吸引と気道管理（1）
22	学内実習・人工呼吸器（4）	気管吸引と気道管理（2）

	23	学内実習・人工呼吸器（5）	人工呼吸器のメンテナンス（1）
	24	学内実習・人工呼吸器（6）	人工呼吸器のメンテナンス（2）
	25	学内実習・心臓カテーテル（1）	心臓カテーテル検査及び治療の流れ（1）
	26	学内実習・心臓カテーテル（2）	心臓カテーテル検査及び治療の流れ（2）
	27	学内実習・高気圧酸素治療（1）	高気圧酸素治療の実際（1）
	28	学内実習・高気圧酸素治療（2）	高気圧酸素治療の実際（2）
	29	学内実習・急性血液浄化（1）	アフェレーシス装置の操作、点検（1）
	30	学内実習・急性血液浄化（2）	アフェレーシス装置の操作、点検（2）
	31	学内実習・ペースメーカ（1）	ペースメーカーチェック（1）
	32	学内実習・ペースメーカ（2）	ペースメーカーチェック（2）
	33	学内実習・総合（1）	生体機能代行装置に関する実務調査（1）
	34	学内実習・総合（2）	生体機能代行装置に関する実務調査（2）
	35	学内実習・総合（3）	生体機能代行装置に関する実務調査（3）
	36	学内実習・総合（4）	生体機能代行装置に関する実務調査（4）
	37	学内実習・総合（5）	生体機能代行装置に関する実務調査（5）
	38	学内実習・総合（6）	生体機能代行装置に関する実務調査（6）
	39	学内実習・総合（7）	生体機能代行装置に関する実務調査（7）
	40	学内実習・総合（8）	患者対応（1）
	41	学内実習・総合（9）	患者対応（2）
	42	学内実習・総合（10）	患者対応（3）
	43	学内実習・総合（11）	患者対応（4）
	44	学内実習・総合（12）	患者対応（5）
	45	学内実習・総合（13）	患者対応（6）

授業科目	生体機能代行装置学実習ⅡB	担当教員 実務経験	扇谷稔 有：■　　無：□	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器に関する業務に従事
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床実習	担当教員	本吉　竜浩		
対象年次・学期	3 年・通期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	臨床工学技士として、医療における臨床工学の重要性・専門性を理解し、臨床現場において最も求められている知識・技術を習得する。				
到達目標	チーム医療の一員としての責任と役割を自覚し、臨床工学技士に求められる知識・技術・業務内容について理解し、行動することができる。				
テキスト・参考図書等	施設ごとに異なるため別途説明				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	①実習日誌(その日の実習に沿った内容が十分に書かれているか) ②実習態度(積極性、指示された業務を適切に実行できたか等) 以上を総合して評価をする
	レポート	50	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他		

履修上の留意事項	別途実習要項配布。項目が多いため臨床実習開始前のガイダンスにて詳細説明あり。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	血液浄化療法実習　45 時間	血液透析・アフェレーシス療法に関する項目の見学と実技実習
	2	機器管理実習　45 時間	医療機器の保守点検に関する項目の見学と実技実習
	3	集中治療室・手術室実習 45 時間	人工心肺手術・人工呼吸療法などに関する項目の見学と実技実習
	4	その他　45 時間	臨床工学技士業務全般に関わる項目の見学と実技実習

授業科目	臨床実習	担当教員 実務経験	山内芳子 有：□　　無：■	
対象年次・学期	3 年・通期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	英語III	担当教員	西村　智嘉男		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	（1）英語を違った視点で見ることで、英語に対する苦手意識が軽減する。　（2）日本語と英語を比較することで、英語がどんな言葉なのかがわかる。				
到達目標	「日本語と英語の違いは何か」と問われた時に、具体的に返答することができるようになる。				
テキスト・参考図書等	プリントとパワーポイントのスライドを使用。　テキスト・参考図書はなし。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	第 1 回目～10 回目に関して、レポートと小テストの合計を 50 点満点に換算して評価。
	レポート	30	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	主体的に授業に参加すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	日本語と英語→語順に対する考え方は大きく違う（1）	英語は語順が命
	2	日本語と英語→語順に対する考え方は大きく違う（2）	日本語は「てにをは」の文化　英語は語順（配置）の文化
	3	英語の語順（配置）のルールを学ぶ （1）	基本 5 文型　①他動型（第 3 文型）
	4	英語の語順（配置）のルールを学ぶ （2）	基本 5 文型　②授与型（第 4 文型）
	5	日本語と英語→修飾方法に違いがある	前からしか修飾しない日本語　後ろからも修飾する英語
	6	英語の語順（配置）のルールを学ぶ （3）	基本 5 文型　③自動型（第 1 文型）　④説明型（第 2 文型）
	7	英語の語順（配置）のルールを学ぶ （4）	基本 5 文型　⑤目的語説明型（第 5 文型）
	8	時表現（日本語と何が違うのか）（1）	過去形の本当の意味（過去を表さない過去形とは何だ）
	9	時表現（日本語と何が違うのか）（2）	過去形と仮定法
	10	主語で動詞の形が変わる英語、変わらない日本語	日本語にはない感覚。日本語が特別なのか、英語が特別なのか
	11	循環器領域	循環器領域、体外循環、補助循環に係る英語を理解する
	12	呼吸器領域	呼吸器領域、人工呼吸器に係る英語を理解する
	13	代謝領域	代謝領域、人工透析に係る英語を理解する
	14	消化器領域	消化器領域、内視鏡に係る英語を理解する
	15	手術室、ICU 領域	手術室、ICU 領域に係る英語を理解する

授業科目	英語III	担当教員 実務経験	本吉竜浩 有：■　　無：□	臨床工学技士として生命維持管理業務に従事
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	看護学概論	担当教員	長倉　竜也		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	看護の在り方や感染対策について広く学ぶ。				
到達目標	臨床工学技士が関わる業務領域において看護の在り方に加え、看護師が実践している感染対策について理解できるようになる。				
テキスト・参考図書等	プリント配付				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	試験により評価する
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①スライドを中心とした講義形式。②テキストや資料の内容は、基本的内容なのでメモするなどきちんと学習すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	看護（1）	透析室における看護と感染対策（1）
	2	看護（2）	透析室における看護と感染対策（2）
	3	看護（3）	手術室における看護と感染対策（1）
	4	看護（4）	手術室における看護と感染対策（2）
	5	看護（5）	内視鏡室における看護と感染対策（1）
	6	看護（6）	内視鏡室における看護と感染対策（2）
	7	看護（7）	その他の領域での看護と感染対策（1）
	8	看護（8）	その他の領域での看護と感染対策（2）

授業科目	看護学概論	担当教員 実務経験	長倉竜也 有：■　　無：□	看護師として医療施設にて患者看護を経験した他、感染管理分野に関する業務に従事
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生体機能代行装置学実習ⅡE	担当教員	本吉　竜浩		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	生体機能代行装置学実習Ⅰで実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置を実際に操作して、システムを学ぶ。				
到達目標	生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を習得し、正しく操作できる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座　「生体機能代行装置学　体外循環装置」　第2版　（医歯薬出版） 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　呼吸療法装置」　第2版　（医歯薬出版） 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　血液浄化療法装置」　第2版　（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	50	①実技試験 ②レポート提出 以上を総合して評価する。
レポート	50	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	少人数でのグループ実習。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	学内実習・体外循環（1）	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整（1）
2	学内実習・体外循環（2）	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整（2）
3	学内実習・体外循環（3）	基本操作（1）
4	学内実習・体外循環（4）	基本操作（2）
5	学内実習・体外循環（5）	基本操作（3）
6	学内実習・体外循環（6）	基本操作（4）
7	学内実習・体外循環（7）	トラブルシューティング（1）
8	学内実習・体外循環（8）	トラブルシューティング（2）
9	学内実習・血液浄化（1）	透析のプライミング（1）
10	学内実習・血液浄化（2）	透析のプライミング（2）
11	学内実習・血液浄化（3）	透析のプライミング（3）
12	学内実習・血液浄化（4）	透析のプライミング（4）
13	学内実習・血液浄化（5）	透析の開始操作（1）
14	学内実習・血液浄化（6）	透析の開始操作（2）
15	学内実習・血液浄化（7）	透析の返血（1）
16	学内実習・血液浄化（8）	透析の返血（2）
17	学内実習・血液浄化（9）	落差プライミング（1）
18	学内実習・血液浄化（10）	落差プライミング（2）
19	学内実習・人工呼吸器（1）	疾患別の呼吸管理（1）
20	学内実習・人工呼吸器（2）	疾患別の呼吸管理（2）
21	学内実習・人工呼吸器（3）	気管吸引と気道管理（1）
22	学内実習・人工呼吸器（4）	気管吸引と気道管理（2）

	23	学内実習・人工呼吸器（5）	人工呼吸器のメンテナンス（1）
	24	学内実習・人工呼吸器（6）	人工呼吸器のメンテナンス（2）
	25	学内実習・心臓カテーテル（1）	心臓カテーテル検査及び治療の流れ（1）
	26	学内実習・心臓カテーテル（2）	心臓カテーテル検査及び治療の流れ（2）
	27	学内実習・高気圧酸素治療（1）	高気圧酸素治療の実際（1）
	28	学内実習・高気圧酸素治療（2）	高気圧酸素治療の実際（2）
	29	学内実習・急性血液浄化（1）	アフェレーシス装置の操作、点検（1）
	30	学内実習・急性血液浄化（2）	アフェレーシス装置の操作、点検（2）
	31	学内実習・ペースメーカ（1）	ペースメーカーチェック（1）
	32	学内実習・ペースメーカ（2）	ペースメーカーチェック（2）
	33	学内実習・総合（1）	生体機能代行装置に関する実務調査（1）
	34	学内実習・総合（2）	生体機能代行装置に関する実務調査（2）
	35	学内実習・総合（3）	生体機能代行装置に関する実務調査（3）
	36	学内実習・総合（4）	生体機能代行装置に関する実務調査（4）
	37	学内実習・総合（5）	生体機能代行装置に関する実務調査（5）
	38	学内実習・総合（6）	生体機能代行装置に関する実務調査（6）
	39	学内実習・総合（7）	生体機能代行装置に関する実務調査（7）
	40	学内実習・総合（8）	患者対応（1）
	41	学内実習・総合（9）	患者対応（2）
	42	学内実習・総合（10）	患者対応（3）
	43	学内実習・総合（11）	患者対応（4）
	44	学内実習・総合（12）	患者対応（5）
	45	学内実習・総合（13）	患者対応（6）

授業科目	生体機能代行装置学実習ⅡE	担当教員 実務経験	扇谷稔 有：■　　無：□	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器に関する業務に従事
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	放射線工学概論	担当教員	北　裕一		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	医用放射線と画像検査について学習する。				
到達目標	医療人として必要な放射線の基礎と画像検査に関する知識を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	試験により評価する
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	スライドを用いた講義形式、ノートをとること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	放射線と放射線防護	放射線の基礎知識(種類・性質・単位、半減期など) 放射線の人体への影響、放射線防護の基礎知識
	2	病気を見つける（1）	一般撮影・CT（装置・撮像原理・画像解剖） 一般撮影・CT の画像診断
	3	病気を見つける（2）	MRI（原理・装置・撮像原理・画像解剖） MRI の画像診断
	4	病気を見つける（3）	核医学検査（放射線医薬品・装置・撮像原理・画像処理） 核医学検査の画像診断
	5	病気を見つける（4）	超音波検査（超音波物理現象・装置・撮像原理・画像解剖） 超音波検査の画像診断
	6	病気を治す（1）	放射線照射器具（密封線源・高エネルギーX 線など） 放射線治療概論
	7	病気を治す（2）	血管造影（装置・撮像原理・画像解剖） インターベンショナル・ラジオロジー概論
	8	まとめ	要点を捉えた総復習

授業科目	放射線工学概論	担当教員 実務経験	北裕一 有：■　　無：□	放射線技師として放射線を用いた診断に関する業務に従
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医用機器学概論III	担当教員	加藤　敏史		
対象年次・学期	3 年・通期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	臨床実習および国家試験に準ずる臨床工学技士に必要な知識の総復習をする。				
到達目標	機器の原理や管理方法を学び、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	プリントを配付、国家試験解説集				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	試験により評価する
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①テキストおよびプリントを用いた講義。②遅刻はしないこと。③授業中の私語、携帯、居眠り厳禁。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	血液透析療法（1）	透析準備①
	2	血液透析療法（2）	透析準備②
	3	血液透析療法（3）	透析中の管理①
	4	血液透析療法（4）	透析中の管理②
	5	血液透析療法（5）	周辺装置の管理
	6	医用機器と臨床工学技士の関わり（1）	医療施設における臨床工学技士業務の実際①
	7	医用機器と臨床工学技士の関わり（2）	医療施設における臨床工学技士業務の実際②
	8	医用機器と臨床工学技士の関わり（3）	医療施設における臨床工学技士業務の実際③
	9	医用機器と臨床工学技士の関わり（4）	医療施設における臨床工学技士業務の実際④
	10	医用治療器（1）	電気メス、除細動器、ペースメーカ
	11	医用治療器（2）	内視鏡視下手術、レーザーメス、高周波治療器
	12	医用治療器（3）	その他の治療器
	13	生体計測装置（1）	心電計、筋電計、脳波計
	14	生体計測装置（2）	パルスオキシメータ、カプノメータ、呼吸計測
	15	生体計測装置（3）	X 線 CT、MRI、PET、SPECT

授業科目	医用機器学概論III	担当教員 実務経験	石井　勝美 有：■　　無：□	臨床工学技士として医療機器を用いた検査や治療に関する業務に従事
対象年次・学期	3 年・通期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生体機能代行装置学実習ⅡA	担当教員	本吉　竜浩		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	生体機能代行装置学実習Ⅰで実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置を実際に操作して、システムを学ぶ。				
到達目標	生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を習得し、正しく操作できる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座　「生体機能代行装置学　体外循環装置」　第2版　（医歯薬出版） 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　呼吸療法装置」　第2版　（医歯薬出版） 臨床工学講座　「生体機能代行装置学　血液浄化療法装置」　第2版　（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	50	①実技試験 ②レポート提出 以上を総合して評価する。
レポート	50	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	少人数でのグループ実習。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	学内実習・体外循環（1）	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整（1）
2	学内実習・体外循環（2）	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整（2）
3	学内実習・体外循環（3）	基本操作（1）
4	学内実習・体外循環（4）	基本操作（2）
5	学内実習・体外循環（5）	基本操作（3）
6	学内実習・体外循環（6）	基本操作（4）
7	学内実習・体外循環（7）	トラブルシューティング（1）
8	学内実習・体外循環（8）	トラブルシューティング（2）
9	学内実習・血液浄化（1）	透析のプライミング（1）
10	学内実習・血液浄化（2）	透析のプライミング（2）
11	学内実習・血液浄化（3）	透析のプライミング（3）
12	学内実習・血液浄化（4）	透析のプライミング（4）
13	学内実習・血液浄化（5）	透析の開始操作（1）
14	学内実習・血液浄化（6）	透析の開始操作（2）
15	学内実習・血液浄化（7）	透析の返血（1）
16	学内実習・血液浄化（8）	透析の返血（2）
17	学内実習・血液浄化（9）	落差プライミング（1）
18	学内実習・血液浄化（10）	落差プライミング（2）
19	学内実習・人工呼吸器（1）	疾患別の呼吸管理（1）
20	学内実習・人工呼吸器（2）	疾患別の呼吸管理（2）
21	学内実習・人工呼吸器（3）	気管吸引と気道管理（1）
22	学内実習・人工呼吸器（4）	気管吸引と気道管理（2）

	23	学内実習・人工呼吸器（5）	人工呼吸器のメンテナンス（1）
	24	学内実習・人工呼吸器（6）	人工呼吸器のメンテナンス（2）
	25	学内実習・心臓カテーテル（1）	心臓カテーテル検査及び治療の流れ（1）
	26	学内実習・心臓カテーテル（2）	心臓カテーテル検査及び治療の流れ（2）
	27	学内実習・高気圧酸素治療（1）	高気圧酸素治療の実際（1）
	28	学内実習・高気圧酸素治療（2）	高気圧酸素治療の実際（2）
	29	学内実習・急性血液浄化（1）	アフェレーシス装置の操作、点検（1）
	30	学内実習・急性血液浄化（2）	アフェレーシス装置の操作、点検（2）
	31	学内実習・ペースメーカ（1）	ペースメーカーチェック（1）
	32	学内実習・ペースメーカ（2）	ペースメーカーチェック（2）
	33	学内実習・総合（1）	生体機能代行装置に関する実務調査（1）
	34	学内実習・総合（2）	生体機能代行装置に関する実務調査（2）
	35	学内実習・総合（3）	生体機能代行装置に関する実務調査（3）
	36	学内実習・総合（4）	生体機能代行装置に関する実務調査（4）
	37	学内実習・総合（5）	生体機能代行装置に関する実務調査（5）
	38	学内実習・総合（6）	生体機能代行装置に関する実務調査（6）
	39	学内実習・総合（7）	生体機能代行装置に関する実務調査（7）
	40	学内実習・総合（8）	患者対応（1）
	41	学内実習・総合（9）	患者対応（2）
	42	学内実習・総合（10）	患者対応（3）
	43	学内実習・総合（11）	患者対応（4）
	44	学内実習・総合（12）	患者対応（5）
	45	学内実習・総合（13）	患者対応（6）

授業科目	生体機能代行装置学実習ⅡA	担当教員 実務経験	扇谷稔 有：■　　無：□	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器に関する業務に従事
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医用治療機器学 II	担当教員	齋藤　大貴		
対象年次・学期	3 年・通期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	医療機器を用いた治療分野の中で急激に進歩・普及しているカテーテル分野において臨床工学技士に求められる知識や技術を習得する。				
到達目標	カテーテル分野において即戦力となりえる知識と冠動脈造影の読影ができる。				
テキスト・参考図書等	確実に身につく PCI の基本とコツ（羊土社） 確実に身につく心臓カテーテル検査の基本とコツ（羊土社） 臨床工学プラクティカル・フルコース（メジカルビュー社） カテーテルスタッフのための PCI 必須知識（メジカルビュー社）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	試験により評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①スライドを用いた講義形式。②実際の機器に触れながらのグループワーク。③遅刻はしないこと。④授業中の私語、携帯、居眠り厳禁。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	心臓カテーテル検査室の治療器	心臓カテーテルに必要な解剖生理
	2	心臓カテーテル検査室の治療器	圧測定（1）
	3	心臓カテーテル検査室の治療器	圧測定（2）
	4	心臓カテーテル検査室の治療器	心拍出量測定
	5	心臓カテーテル検査室の治療器	冠動脈造影（1）
	6	心臓カテーテル検査室の治療器	冠動脈造影（2）
	7	心臓カテーテル検査室の治療器	その他の造影
	8	心臓カテーテル検査室の治療器	PCI（1）
	9	心臓カテーテル検査室の治療器	PCI（2）
	10	心臓カテーテル検査室の治療器	カテーテルアブレーション（1）
	11	心臓カテーテル検査室の治療器	カテーテルアブレーション（2）
	12	心臓カテーテル検査室の治療器	実際の心臓カテーテル室業務（1）
	13	心臓カテーテル検査室の治療器	実際の心臓カテーテル室業務（1）
	14	心臓カテーテル検査室の治療器	実際の心臓カテーテル室業務（2）
	15	心臓カテーテル検査室の治療器	実際の心臓カテーテル室業務（2）

授業科目	医用治療機器学Ⅱ	担当教員 実務経験	本吉竜浩 有：■　　無：□	臨床工学技士として心臓カテーテル室で機器を用いた治療に関する業務に従事
対象年次・学期	3 年・通期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		